

慢性の痛みの理解と
診療体制の構築に向けて
【東北ブロック】
報告書

公立大学法人福島県立医科大学医学部
疼痛医学講座

目次

1.挨拶	福島県立医科大学疼痛医学講座 教授 矢吹 省司	3
2.厚生労働省 慢性疼痛診療システム均てん化等事業について		4
3.地域の活動報告		
Ⅰ.青森県		
「青森地区の活動報告」		
..... 八戸市立市民病院 第一整形外科部長兼リハビリテーション科部長 沼沢 拓也		8
「慢性疼痛診療研修会 報告」		
..... 八戸市立市民病院 リハビリテーション科 理学療法士 石村 慶太		11
Ⅱ.岩手県	岩手医科大学医学部麻酔科学講座 准教授 大畑 光彦	14
「令和6年度 活動報告 岩手県」		
Ⅲ.秋田県	秋田大学医学部附属病院 麻酔科 山本 夏子	16
「秋田県 令和6年度 活動報告」		
Ⅳ.宮城県		
[宮城・仙台ペインクリニック]		
「仙台痛みのフォーラム 多診療科・多職種による地域の痛みの勉強会」		
..... 仙台ペインクリニック 伊達 久		18
「リハビリテーション職種のための慢性疼痛診療研修会:慢性疼痛患者の心理アセスメント」		
..... 仙台ペインクリニック リハビリテーション科 理学療法士 大友 篤		22
[宮城・東北医科薬科大学]	東北医科薬科大学医学部 整形外科学 教授 小澤 浩司	23
「令和6年度厚生労働省慢性疼痛診療システム均てん化等事業活動報告」		
[宮城・東北大学／歯科]	東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野 水田健太郎	25
「歯科医師のための慢性疼痛診療講習会・研修会報告」		
Ⅴ.山形県		
「令和6年度活動報告」	山形大学医学部整形外科学講座 講師 鈴木 智人	27
「めざせ！ サステナブルな慢性疼痛診療」		
..... 山形大学医学部附属病院疼痛緩和内科 講師 飯澤 和恵		29
Ⅵ.福島県		
「令和6年度厚生労働省慢性疼痛診療システム均てん化等事業 市民公開講座 痛み×仕事×健康寿命」		
..... 福島県立医科大学医学部疼痛医学講座 教授 星総合病院慢性疼痛センター 副センター長 高橋 直人		31
「慢性疼痛診療研修会 報告」	星総合病院 慢性疼痛センター 二瓶 健司	33
4.編集後記	福島県立医科大学疼痛医学講座 教授 矢吹 省司	35



令和 6 年度 慢性疼痛診療システム均てん化等 事業について

福島県立医科大学 疼痛医学講座

教授 矢吹 省 司

「令和6年度慢性疼痛診療システム均てん化等事業」は全国8地区で行われています。この事業は厚生労働省が公募して行っている事業であり、診療システムの構築・均てん化と人材育成を行うという2大柱で成り立っています(P5.図1)。

まず、システム構築・均てん化については、東北には現在「福島県立医科大学」、「星総合病院」、「仙台ペインクリニック」の3つの痛みセンターがあります。この痛みセンターを中心とした、あるいは各県の連携施設を中心とした診療ネットワークを構築し、東北地区における痛み診療システムを均てん化することが一つの大きな柱となっています。

もう一つの柱が人材育成です。研修会や講演会あるいは見学、出前講演会などを行って人材育成をしようというものです。コロナ禍が収まってきて対面で行える状況になってきたのは嬉しい変化でした。人材が育ってきて、痛みセンターが東北各県に設置されるようになってほしいと願っています。

今年度も東北地区の各県幹事・協力者にお力添えを頂き、県毎に慢性疼痛診療についての企画を立案・実施していただきました。その結果、より地域に根差した講義、ディスカッションが可能となり、地域連携が進んだのではないかと考えております。まずは地域ごとに慢性疼痛に関する知識の普及、教育を進め、東北全体としてのレベル向上と連携を目指して行きたいと考えています。

この報告書は、1年間東北で行ってきたモデル事業の全体像がわかるようになっています。最後まで読んでいただき、本慢性疼痛診療システム均てん化等事業に参加された皆様には学んだ知識を思い出していただきたいと思います。また、参加されなかった皆様には慢性疼痛診療に興味を持っていただくきっかけになれば幸いです。

今後とも本慢性疼痛診療システム均てん化等事業へのご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

厚生労働省 慢性疼痛診療システム均てん化等事業について

◎慢性疼痛診療システム均てん化等事業とは

現在、厚生労働省では、厚生労働行政推進調査事業費補助金(慢性の痛み政策研究事業)における研究班(研究代表：福島県立医科大学医学部疼痛医学講座教授矢吹省司)において、患者が身近な医療機関で診療できるよう地域の医療機関との診療連携体制について研究を進めています。慢性の痛みを来す疾患は、筋骨格系及び結合組織の疾患、神経疾患等の内科的疾患、線維筋痛症や複合性局所疼痛症候群等の原因不明のものまで多種多様な一方で、客観的な評価が困難で、標準的な評価法や診断法は未確立のため、慢性の痛みを抱える患者さんは周囲から理解を得られにくく一人で悩みを抱えていることがあります。こうした、精神医学的要因、心理学的要因等が複雑に関与して痛みを増悪させることから、慢性の痛みの診療においては、診療科の枠組みを超えた集学的な対応が求められています。

平成29年度～令和4年度において実施した慢性疼痛診療システムの構築に関するモデル事業[※]においては、全国8ブロックで地域のかかりつけ医をはじめとした医療機関と痛みセンターの連携モデルを構築し、地域の医療提供体制へ当該モデルを展開するための事業を実施して参りました。

令和5年度から新たに開始された「慢性疼痛診療システム均てん化等事業」の目的は、都道府県間で診療体制の均てん化を図るため、研究事業等で得られた最新の診療ノウハウの普及等を実施することです。

福島県立医科大学医学部疼痛医学講座では、旧モデル事業実施の6年間に続き、東北地区代表施設として採択され、慢性疼痛診療システムに関する事業に取り組んでいます。

※平成29年度～令和元年度：慢性疼痛診療体制構築モデル事業

令和2年度～令和4年度：慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

◎慢性疼痛の理解と人材育成について

慢性疼痛診療システム均てん化等事業では、東北ブロックの連携機関を中心に各県の特色を活かし、研修会・講演会等を通して慢性疼痛の理解と人材養成を進める活動を実施しています。令和5年度からは評価の均てん化を図るべく、リハビリテーション職種の有志が中心となり、研修会を実施するという取り組みも始めました。このことにより、全国共通の評価方法を身に着けていただくことが期待されます。是非お近くで開催される研修会・勉強会などにご参加いただき、慢性疼痛に関わる知識・情報の取得や、慢性疼痛治療に取り組む仲間づくりの機会として活用して欲しいと考えています。グループワークを取り入れた活発な研修会・講演会の実施と、遠隔地でも患者診療体制や人材養成が可能となるようなハード面での体制も整え、強固な連携環境づくりにも取り組み、地域の力を育てる試みを続けたいと考えております。

研修会・講演会に関するお知らせについてはこちらのホームページをご覧ください。

URL <https://toutsuu-toru.net/>



◎東北ブロックにおける痛みセンターと連携機関

東北ブロックでは東北6県の協力者と連携し、事業を進めています。東北地方では既存の「公立大学法人 福島県立医科大学」、「公益財団法人 星総合病院」のほか、令和2年から「医療法人社団関通会 仙台ペインクリニック」が新たに痛みセンターに認定され、3つの痛みセンターを中心に事業を進めています。連携施設を広げ、慢性疼痛患者さんがより適切な施設へ紹介可能な医療連携システムの構築を目指しています。また、本事業において、積極的な連携や情報の共有、見学研修を行い、東北地区に厚労省研究班の「痛みセンター」認定施設が増えていくことを希望しています。

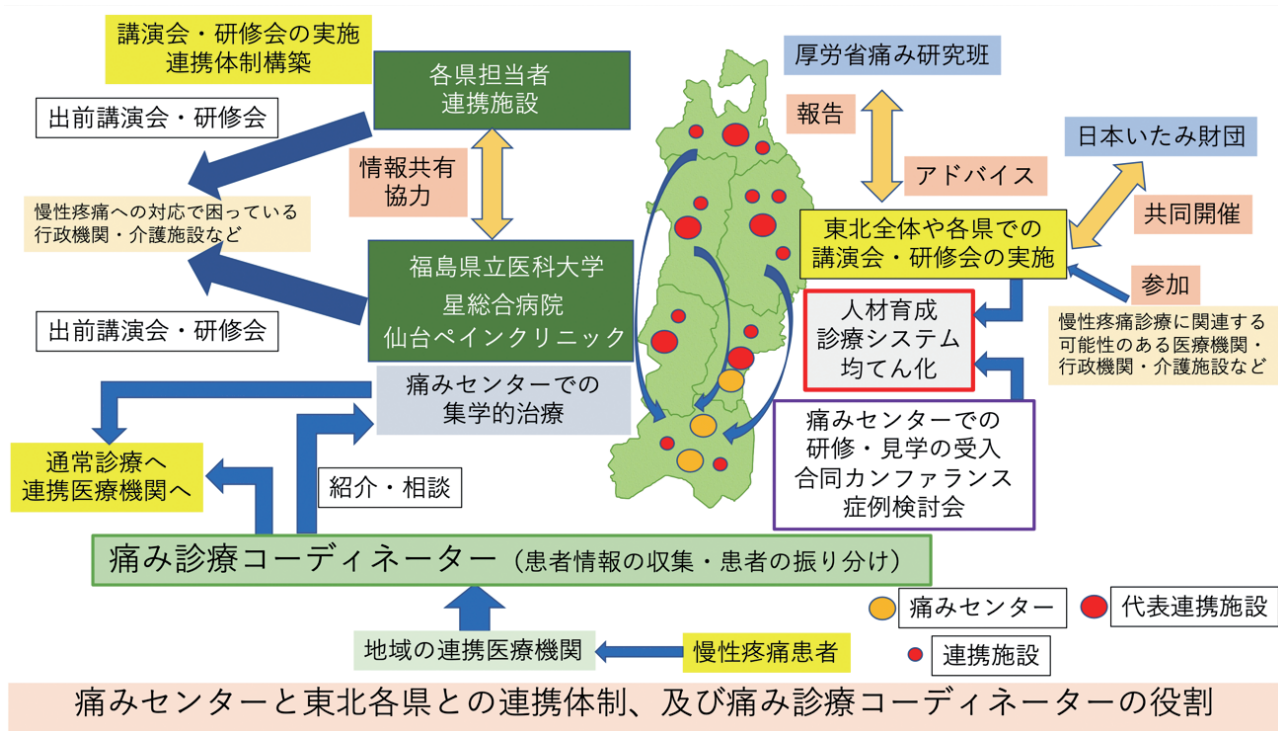


図1 令和6年度慢性疼痛診療システム均てん化等事業構想

令和6年度 慢性疼痛診療システム均てん化等事業 東北地区各県代表幹事及び協力者

青森県	八戸市立市民病院	整形外科 リハビリテーション科	医師	沼沢 拓也
		コーディネーター	理学療法士	石村 慶太
			理学療法士	盛島 幾子
			理学療法士	風穴 愛貴
岩手県	岩手医科大学	麻酔科	医師	大畑 光彦
宮城県	仙台ペインクリニック	麻酔科	医師	伊達 久
		コーディネーター	理学療法士	大友 篤
			薬剤師	塩津 由美
	東北医科薬科大学	整形外科	医師	小澤 浩司
	東北大学	麻酔科	医師	山内 正憲
		大学院歯学研究科	医師(歯科)	佐々木啓一
			医師(歯科)	水田健太郎
秋田県	秋田大学	麻酔蘇生疼痛管理学講座	医師	新山 幸俊
			医師	木村 哲
			医師	山本 夏子
山形県	山形大学	整形外科科学講座	医師	鈴木 智人
		山形大学医学部附属病院 疼痛緩和内科	医師	飯澤 和恵
	山形大学	山形大学医学部附属病院 疼痛緩和内科	公認心理師	小林(三道) なぎさ
福島県	福島県立医科大学	整形外科科学講座 疼痛医学講座	医師	矢吹 省司
		整形外科科学講座	医師	二階堂琢也
	星総合病院	整形外科 慢性疼痛センター	医師	高橋 直人
		コーディネーター	理学療法士	二瓶 健司
			看護師	本 幸枝

(※敬称略)

地域の活動報告

I .青森県

II .岩手県

III .秋田県

IV .宮城県

[仙台ペインクリニック]

[東北医科薬科大学]

[東北大学／歯科]

V .山形県

VI .福島県

八戸市立市民病院
第一整形外科部長兼リハビリテーション科部長

沼沢 拓也



令和6年度厚生労働省慢性疼痛診療システム均てん化等事業の青森地区の活動報告をさせていただきます。今年度は7月に慢性疼痛診療ガイドライン作成ワーキンググループによる慢性疼痛診療ワークショップ－多職種によるディスカッション－を青森県八戸市で開催し、参加者の募集から会の設営や運営に協力させていただきました。また12月、1月、2月にオンライン講習会を各1回開催し、2月には現地研修会を1回開催しました。また慢性疼痛患者の症例検討会を中心とした「八戸ペインミーティング」を6月、11月、2月に計3回開催しました。3月にはオンラインでの研修会を開催予定であり、また同月には日本いたみ財団主催の市民公開講座に協力する予定です。

今年度はいくつかのテーマを決めて講演会を開催しました。1つは慢性腰痛をターゲットにした運動療法です。身体の有訴者率が男女ともに1位である腰痛に対しては、運動療法は効果があることは知られていますが、実際に運動療法をどれだけ行えばよいのか、あるいはどのように行えばよいのか等については様々な報告があります。講演ではより実践で臨床に役立つ治療法について、リハビリテーション関連職種に最新の治療方法を教育させていただきました。2つめは痛みと栄養に関する教育です。慢性疼痛患者の行動パターンからみた栄養摂取とバランスについての講演と必須脂肪酸の摂取バランスが体の痛みに影響を与える点について講演いただきました。3つめは歯科領域における慢性疼痛患者の治療状況を共有し、他科多職種での歯科慢性疼痛患者への関わり方について、治療連携していく方法などについて講演いただきました。多方面から慢性疼痛診療を考えていく機会が設けられたと思っております。

研修会としては、医師とリハビリ職種を対象に慢性疼痛に対する考え方の講義と、臨床現場に帰ってすぐに利用することを目的に最近注目されているピラティスについて、現地に参集して講師から直接に指導していただく機会を設けました。特に骨・関節・筋肉などの運動機能の弱い高

齢者などを相手にする場合への配慮を多く取り入れる工夫をしていただきました。また日本いたみ財団の共催でオンラインでの多職種によるグループディスカッションを取り入れた研修会をこれから開催する予定です。

当地域で独自に行っている「八戸ペインミーティング」は例年通り3回開催し、講師による特別講演のあとに多職種による症例検討会を行い、地域の慢性疼痛患者情報の共有と診療連携についてディスカッションを行いました。

また市民への慢性疼痛診療の普及と啓蒙のためにこれから市民公開講座を開催する予定であります。日本いたみ財団とともに腰痛に関する知識と運動方法の最新の情報を一般市民へ伝える予定であります。

今年度も地方地域において慢性疼痛診療システムの均てん化に向けた活動ができたと思っており、今後も地方でこのような連携しながらの活動を継続したいと思っております。

【青森地区慢性疼痛診療研修会(講演会パート)】

第1回慢性疼痛診療研修会

日時:2024年12月2日(月) 18:30~20:00 オンライン講演会(グランドサンピア八戸配信)

参加対象:青森県内のリハビリテーション関連職種

テーマ:慢性腰痛に対するリハビリテーションー最近のトピックスをまじえてー

【講演1】

所属 桐蔭横浜大学大学院 スポーツ科学研究科教授

演者 成田 崇矢 先生

演題 慢性腰痛に対する理学療法

【講演2】

所属 一般社団法人 Educate Movement Institute 代表理事

演者 本橋 恵美 先生

演題 運動療法としてのピラティス

腰痛に対する運動治療について、学会等で活躍されている講師から慢性腰痛に対する運動治療の必要性とその方法について詳しく解説していただきました。

50名を超える参加者は医師やリハビリテーション職種が中心であり、事後アンケートでは満足度は高かったです。臨床現場ですぐに活用出来るように、2月の研修会への参加を促しました。



第2回慢性疼痛診療研修会

日時:2025年1月14日(火) 18:30~20:00 オンライン講演会(グランドサンピア八戸配信)

参加対象:青森県内の痛みにかかわる全職種

テーマ:痛みと栄養

【一般講演】

所属 公益財団法人星総合病院医療技術部栄養科

演者 館 歩 先生

演題 慢性疼痛患者さんから学ぶ食生活の重要性

【特別講演】

所属 一般社団法人日本リポニュートリション協会 代表理事

演者 地曳 直子 先生

演題 脂質が痛みに与える影響

慢性疼痛センターの管理栄養士から慢性疼痛患者への栄養指導について詳しく説明いただき、また食事の脂肪酸が痛みに関わっており、その摂取バランスが大切であることを説明いただきました。

30名を超える参加者は理学療法士と栄養士が多く、事後アンケートでは痛みと栄養に関わる講義に大変興味を持たれておりました。



第4回慢性疼痛診療研修会

日時:2025年2月19日(水) 18:45～19:45 オンライン講演会(グランドサンピア八戸配信)

参加対象:青森県内の痛みに関わる全職種

テーマ:医科歯科連携

【講演1】

所属 八戸市立市民病院歯科口腔外科

演者 長内 俊之 先生

演題 歯科領域の慢性疼痛と薬剤関連性顎骨壊死

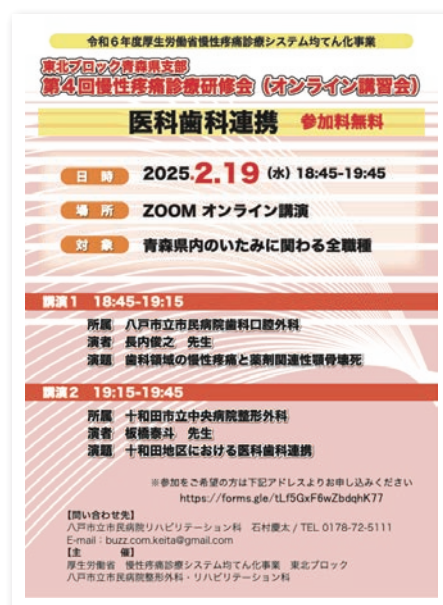
【講演2】

所属 十和田市立中央病院整形外科

演者 板橋 泰斗 先生

演題 十和田地区における医科歯科連携

青森県では歯科領域における慢性疼痛の話題についての講演会を今まで開催することがなかったため、歯科医師より歯科口腔外科領域の慢性疼痛について講演いただきました。また歯科と連携している十和田地区の医師より、医科歯科連携について講演いただき、慢性疼痛診療における多職種、地域連携の重要性を学ぶ機会となりました。



【八戸ペインミーティング(特別講演会+症例検討会)】

第15回 八戸ペインミーティング 2024年6月26日(水) 18:30～20:30 八戸パークホテル

特別講演 演題名:慢性痛患者の社会的科学的アセスメント&薬物療法ソリューション

演者:医療法人社団関連会仙台ペインクリニック石巻分院 川井 康嗣 先生

第16回 八戸ペインミーティング 2024年11月28日(木) 19:00～21:00 八戸パークホテル

特別講演 演題名:脊椎髄疾患の痛みのマネジメント

演者:弘前大学大医学院医学研究科整形外科学講座 熊谷玄太郎 先生

第17回 八戸ペインミーティング 2025年2月27日(木) 19:00～21:00 グランドサンピア八戸

特別講演 演題名:八戸ペインミーティングの歴史と今後の展望

演者:八戸市立市民病院整形外科 沼沢 拓也 先生

今年度も3回の八戸ペインミーティングを開催し、講演で勉強した後に症例検討を1時間以上行いました。検討症例は各回2～3演題あり、他科多職種から多くの活発な意見がありました。

(八戸市立市民病院整形外科 沼沢 拓也)

八戸市立市民病院
リハビリテーション科 理学療法士

石村 慶太



【青森地区慢性疼痛診療研修会(研修会パート)】

第3回慢性疼痛診療研修会

日 時:2025年2月9日(日) 9:00～12:40 場 所:グランドサンピア八戸

参加対象:医師およびリハビリテーション関連職種

テ ー マ:慢性腰痛に対する運動療法 ～モーターコントロールエクササイズを活用～

プログラム1 慢性疼痛および慢性腰痛の運動療法

【講演1】

所属 仙台ペインクリニック

演者 大友 篤 先生

演題 慢性疼痛に対する運動療法

【講演2】

所属 八戸市立市民病院 リハビリテーション科

演者 石村 慶太

演題 慢性腰痛に対する運動療法

プログラム2 慢性腰痛の運動療法の実践

【講演・実践】

所属 一般社団法人 Educate Movement Institute 代表理事

演者 本橋 恵美 先生

演題 慢性腰痛に対するリハビリテーション ～モーターコントロールエクササイズを活用～



この研修会では、本県で初めて実技を交えた研修を実施しました。定員30名に対し、33名の応募がありました。当日は医師1名、看護師2名、理学療法士22名、作業療法士3名の計28名が参加しました。

研修プログラムは二部構成で行われました。プログラム1では、慢性疼痛に関する総論と各論を講演していただき、運動療法の実施方法と評価・測定的重要性について解説していただきました。総論では評価の重要性や運動療法のポイント、定量的知覚検査(Quantitative Sensory Testing;QST)を解説していただきました。各論では慢性腰痛に焦点を絞り、慢性疼痛診療ガイドラインよりモーターコントロールエクササイズ的重要性に触れつつ、腰痛に対する運動療法と評価方法について解説しました。

プログラム2では、座学と実技を行い、慢性腰痛診療に役立つモーターコントロールの一つであるピラティスについて講演していただきました。片脚立位などの立位種目が多くバランス能力が求められるヨガとは異なり、座位での種目が比較的多く、高齢者にも安全に実施可能なピラティスを用いて、慢性疼痛患者に対する運動提供やモーターコントロールエクササイズの重要性を学びました。実技では、参加者が持参したヨガマットを会場に敷き、1時間にわたりほぼ休憩なしでピラティスを体験しました。運動を研修会に取り入れたことで、参加者からはこれまでにない笑顔や苦痛の表情が見られるなど、実技を通じた学びの効果が確認されました。

講演後のアンケートの結果

研修会の後には以下に示す項目毎に4段階アンケート(①満足②やや満足③やや不満④不満)評価を行いました(n=24 回答率85.7%)。

- 司会進行 ①満足 100% ②やや満足 0% ③やや不満 0% ④不満 0%
- 時間配分 ①満足 70.8% ②やや満足 25.0% ③やや不満 4.2% ④不満 0%
- 講義の内容 ①満足 87.5% ②やや満足 12.5% ③やや不満 0% ④不満 0%
- 研修会全体 ①満足 95.8% ②やや満足 0% ③やや不満 4.2% ④不満 0%

●慢性疼痛診療研修会があった場合の参加希望について

積極的に参加したい50% 参加したい41.7% 参加したくない0% どちらでもない8.3%

●感想・ご意見(自由記載)：一部抜粋

- ・患者さんに指導する側であるのに自分の体は全く動かせていないことがよくわかりました。
 - ・ピラティスは初めての体験で、自分の体の使い方が全然できていませんでした。もっと鍛えていかなければと思いました。
- 帰宅後は全身筋肉痛でした。

アンケート結果から多くの参加者の方が今回の研修会について満足が得られたことが分かりました。今後も、慢性疼痛診療に関する研修の充実を図り、実技を取り入れた実践的な研修会の開催を検討してまいります。



2025年3月以降に行われる現地研修会

【慢性疼痛診療研修会】

日 時:2025年3月2日(日) 9:00～12:30 開催形式:オンライン開催

参加対象:青森県を中心とする医療従事者、慢性痛に関する職種の方々

開会の挨拶、アイスブレイク

八戸市立市民病院整形外科 沼沢 拓也 先生

慢性疼痛と薬物治療

岩手医科大学麻酔科学講座 大畑 光彦 先生

慢性疼痛の運動療法

八戸市立市民病院 リハビリテーション科 理学療法士 石村 慶太

慢性疼痛患者の心理的アプローチ

新潟医療福祉大学心理健康学科 小林なぎさ 先生

症例検討

星総合病院整形外科 高橋 直人 先生

閉会の挨拶

八戸市立市民病院整形外科 沼沢 拓也 先生

(八戸市立市民病院:リハビリテーション科 理学療法士 石村 慶太)

令和6年度厚生労働省慢性疼痛診療システム均てん化等事業

東北ブロック（青森県）

慢性疼痛診療研修会

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、グループディスカッションを行います。
慢性痛に興味のある方は、是非お気軽にご参加ください。

日時 2025年3月2日（日）
9：00～12:30（受付8：45～開始）

会場 Zoomオンライン会議システム

参加対象 青森県を中心とする医療従事者、慢性痛に関連する職種の方々
医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・公認心理師・ソーシャルワーカー・介護士・その他

- 1.慢性疼痛と薬物療法
- 2.慢性疼痛の運動療法
- 3.慢性疼痛患者の心理的アプローチ
- 4.症例検討

参加費：無料
定員30名 先着順
※事前申込必須※

参加をご希望の方は下記（QRコード）よりお申込みください
<https://forms.gle/WW9Hvd2gUctv2cTj9>

申込期限：2024年2月25日（月）
定員になり次第締め切ります

お問合せ先：一般財団法人日本いたみ財団 事務局
Email：itamizaidan@gmail.com

【主催】厚生労働省「慢性疼痛診療システム均てん化事業 東北ブロック」
八戸市立市民病院整形外科
【共催】一般財団法人日本いたみ財団



岩手医科大学医学部麻酔科学講座
准教授

大畑 光彦



岩手県では、慢性疼痛診療に関して、慢性疼痛診療研修会（痛み財団委託）、マインドフルネス研修会、慢性疼痛診療シンポジウム（症例検討会）を企画しました。

慢性疼痛の知識をさらに広めるために「慢性疼痛診療研修会」を例年と同様に企画開催しました。また、マインドフルネスを診療に活用していくために、まずどんなものか学習し、我々医療従事者が体験することで理解を深める研修会を企画しました。講師を九州大学 心療内科安野広三先生にお願いし、基本から実践まで網羅された講演をいただき、濃密で充実した時間となりました。また、シンポジウム「慢性疼痛診療症例検討会」ではより実際の議論のため症例検討会として企画しました。

令和6年10月、企画案内状を作成、岩手県の慢性疼痛診療に関わる医療機関に送付、研修会、シンポジウムへの参加者を募集しました。参加者の裾野は広がっていると思われますが、忙しい日常診療の中で時間をつくり企画に参加される医療従事者は多くはありませんが、啓蒙の継続は徐々に慢性疼痛患者に還元されると考えます。今回の企画で各部門の交流がさらに円滑に行われ、「継続は力なり」と感じるところです。

【1】慢性疼痛診療研修会

日 時：令和6年11月24日（日） 9:00 ～ 12:30 場 所：Zoomオンライン会議

対 象：岩手県内の医療従事者

プログラム：1.慢性疼痛とその治療（秋田大学 木村 哲 先生）

2.慢性疼痛の運動療法（仙台ペインクリニック 大友 篤 先生）

3.慢性疼痛患者の心理的アプローチ（星総合病院 荒瀬 洋子 先生）

4.症例検討（八戸市民病院 沼沢 拓也 先生）

一般財団法人日本いたみ財団の共催で行われ、慢性疼痛の知識は薬物治療の講義に含めていただき、その他の治療として運動療法、心理療法について講義いただきました。講義ごとにディスカッションの時間を設け、参加者を5グループとして討論いただきました。今年度は治療に焦点をあてた研修会としました。これらの知識をふまえ、症例検討では、討論しながら具体的に治療をシミュレーションできたのではないかと考えます。

職 種	参加者数
医師	5名
歯科医師	1名
看護師	7名
理学療法士	4名
臨床心理士	2名
鍼灸師	1名
医療事務	1名
計	21名

【2】マインドフルネス研修会

日 時：令和6年12月15日（日） 9:30 ～ 12:15

場 所：盛岡市民交流センターマリオス 18階 188室

対 象：岩手県の医療従事者

内 容：1.マインドフルネスとは 2.臨床応用への歴史とエビデンス

3.マインドフルネスの実際 4.マインドフルネスの効果機序 5.実際の症例

九州大学心療内科安野広三先生にご講演いただいた。

「人は物事に対して無意識に価値判断や解釈をしたり、正解探しをしている」など我々の日常の有り様を認識することから始まり、それに対して、「マインドフルネスという心の態度」「マインドフルネス瞑想による心理・行動面への効果」を学びました。痛みに対しては、「破局化（予期不安）の低減」と「注意の柔軟性」について解説されました。

職 種	参加者数
医師	8名
歯科医師	2名
薬剤師	2名
理学療法士	1名
心理士	1名
看護師	3名
歯科衛生士	2名
医療事務	2名
医学生	5名
計	26名

【3】シンポジウム「慢性疼痛症例検討会」

日 時：令和7年1月11日(土) 10:30 ～ 13:00 場 所：Zoomオンライン会議

対 象：岩手県の医療従事者

プログラム：座長 大畑 光彦(岩手医科大学麻酔学講座)

1. 整形外科医の立場から(岩手医科大学整形外科学 鈴木 忠 先生)
2. リハビリテーションの立場から(岩手医科大学リハビリテーション部 坪井 宏幸 先生)
3. 臨床心理士の立場から(岩手医科大学臨床心理士室 藤原 恵真 先生)

この企画は、慢性疼痛に対して日常診療の中で経験する診療の難しさ、患者の特徴、患者の家族や環境、アプローチの模索、接し方、医療者の感じるストレスなどをご紹介いただき、これまで慢性疼痛についての知識を勉強してきたことをどう実践できるか検討することを主旨としました。

整形外科医、理学療法士、臨床心理士と職種の異なるシンポジストに、それぞれの立場から慢性疼痛診療に対して症例提示と提言をいただきました。それぞれの分野の役割としての特徴、提供できる手段があるわけですが、本症例検討会では、あらためて各分野それぞれの力量を感じ、さらにチームとして活動することにより、より効果的診療ができることが実感されました。まさに集学的なアプローチへの前進と思います。

今回印象的であったことは、整形外科医から「器質的には絶対的適応ではないが、慢性疼痛患者の希望・背景を考慮し、手術を選択するケースがあるのではないか」とのコメントをいただき、慢性疼痛患者では手術適応は慎重にするべきとの考え方もありますが改めて考えさせられました。

また理学療法的には、「慢性疼痛患者の目標設定は、1か月、2か月、半年後、将来的と段階的に設定し進めることが重要」や「疼痛発症からなるべく早い時期からリハビリテーションを導入する」ことが確認され、速い対応が強調されました。

臨床心理的には、「患者の支えとなるリソースをたくさん集める」こと、具体的には、生活歴、家族関係、友人関係、職場での対人関係、性格傾向、趣味、理解力、思考様式、行動様式、感情・情動面の情報収集を提言いただきました。

「慢性疼痛患者の診療においては、診療遅延・迷惑行為などの問題があり、場合によっては病院として診療拒否を選択するケースがある」などもあげられました。

職 種	参加者数
医師	11名
歯科医師	1名
薬剤師	1名
看護師	5名
保健師	1名
理学療法士	4名
臨床心理士	1名
計	24名



〔秋田〕

秋田県 令和6年度 活動報告

秋田大学医学部附属病院 麻酔科

山本 夏子



東北ブロック(秋田県)慢性疼痛診療研修会

日 時: 令和7年1月26日(日) 13:00~16:00

会 場: 秋田大学医学部附属病院 シミュレーション教育センター

参加対象: 秋田県を中心とする慢性痛に関連する全職種

複雑な痛みを抱える慢性疼痛患者の治療にはリハビリテーションが重要ですが、当科での慢性疼痛診療においてはリハビリテーション部門との連携が確立していないのが現状です。したがって、この研修会を連携の契機にしたいと考え、企画・開催しました。

COVID-19パンデミック以降、初めての対面での開催でしたが、盛会のように終了しました。レギュラーな運営に対してご理解・ご協力をいただきました日本いたみ財団 内藤様、福島医大 高槻様には心より感謝申し上げます。エコーを用いたライブを含む新しい形式の研修会は、参加者からも大好評でした。

令和6年度厚生労働省慢性疼痛診療システム円滑化等事業 東北ブロック(秋田県)

慢性疼痛診療研修会

～秋田県の慢性疼痛治療に対する運動療法の導入と強化～

講義とグループディスカッションで、明日からの診療に役立つ評価と治療を学びます

日時 2025年1月26日(日) 13:00～16:00 (受付開始 12:30)

会場 秋田大学医学部附属病院 シミュレーション教育センター 1階TVセミナー室 <https://www.hos.akita-u.ac.jp/sim/index.html>

参加対象 医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、公認心理師、ソーシャルワーカー、薬剤師

参加費: 無料
定員 30名
※事前申込

【参加申込】ご希望の方は下記のURLやQRコードよりお申し込みください
<https://forms.gle/2jW2DzhHBEVHPHVK6>

【申込期限】2025年1月17日(金)、定員になり次第締め切ります

当日の内容

1. 疼痛医学概論
2. 慢性疼痛の運動療法
3. 運動器慢性疼痛に対する医師-PT連携の実践
4. 神経障害性疼痛に対する理学療法の最新アプローチ
5. グループディスカッション (運動器エコーを用いた理学療法)

秋田大学 麻酔科 新山 幸俊
星総合病院 PT 二瓶 健司
城東整形外科 皆川 洋至
東京国際大学 理学療法学科 生田 太
城東整形外科 Ns 佐々木 翔
城東整形外科 PT 渡部 裕之

【問い合わせ】一般財団法人 日本いたみ財団 事務局 Email: itamizaidan@gmail.com

【主催】厚生労働省「慢性疼痛診療システム円滑化等事業」 東北ブロック
秋田大学医学部附属病院 麻酔科

【共催】一般財団法人 日本いたみ財団

内 容: (1)疼痛概論: 秋田大学医学部附属病院麻酔科 新山 幸俊 先生

(2)慢性疼痛の運動療法: 星総合病院 理学療法士 二瓶 健司 先生

(3)常識を覆す「痛み」の真実～医師とPTが紡ぐ新たな臨床連携:

城東整形外科 皆川 洋至 先生

(4)慢性痛予防の最前線～静脈穿刺トラブルゼロへの挑戦:

城東整形外科 看護師 佐々木 翔 先生

(5)必見! PTの匠技 ～病態に応じた理学療法のリアル～

「道具で引き出す新たな慢性痛治療」: 東京国際大学理学療法科 生田 太 先生

「手技で紡ぐ慢性痛治療の妙義」: 城東整形外科 理学療法士 渡部 裕之 先生

(6)症例検討: 城東整形外科 皆川 洋至 先生

職種	参加人数
医師	6名
看護師	5名
理学療法士	4名
作業療法士	3名
薬剤師	1名

まず、慢性疼痛診療の基本について当科の新山先生に概説していただきました。二瓶先生には慢性疼痛に対する運動療法について、その理論や必要性に加え、ご自身の施設における入院プログラムをご紹介いただきました。皆川先生は言わずと知れた運動器エコーの大家ですが、エコーを用いたハイドロリリースにより歩けるようになった小児の症例などを、魅力的なプレゼンテーションでご紹介いただきました。看護師の佐々木先生からは、静脈穿刺トラブルから慢性疼痛を引き起こすケースについて、予防法としてのエコーを用いた静脈穿刺手技のライブを含めてご講演いただきました。生田先



生の電気刺激療法、特に電動歯ブラシを用いたライブプレゼンテーションでは、参加者が被検者となり、実際に痛みが軽くなる様子に大変驚かされました。渡部先生にはエコーを用いた筋膜リリースを実演していただき、解剖と機能を理解した上での「巧の技」を見せていただきました。どれも参加者を飽きさせない工夫が満載の講演で、大変興味深いものでした。グループディスカッションではファシリテーターを生田先生、また当科から木村 哲 先生、根本 晃 先生、山本夏子が担当しました。4グループに分かれ、「痛みに年齢を考慮すべきか?」「術後の遺残疼痛にどう対応すべきか?」という問いに対してディスカッションを行いました。

3時間では足りないと感じるほどの充実した内容となりました。

講師・ファシリテーターの先生方、ありがとうございました。

当科におけるペインクリニック外来診療

今年度は仙台ペインクリニックで研鑽を積んだ根本 晃 先生が加わり、木村 哲 先生、今野 俊宏 先生、山本夏子の4人で診療を担当しました。当科で入院患者を1名受け入れたこと、入院中の患者を秋田県内のペインクリニックへ紹介し、神経根焼灼術を行なったことなどが新たな試みでした。現在自施設で施行できる治療は限られていますが、エコーを用いたブロック注射など、安全性に配慮した診療を取り入れつつ、徐々に体制を整備してペインクリニック診療を若手麻酔科医にも体験してもらいたいと考えています。

また、大学病院の強みである他科との連携を維持し、今後はさらにリハビリ部門との連携を強化することによって、慢性痛に悩む患者さんに寄り添うことのできる診療体制を作り上げていきたいと考えています。

延べ患者数	ペイン入院患者数	ブロックの種類	患者数
1,288名	1名	腰部硬膜外ブロック	5名
		仙骨硬膜外ブロック	3名
		頸部・胸部硬膜外ブロック	42名
		星状神経節ブロック	79名
		その他	29名

〔宮城〕

〔宮城・仙台ペインクリニック〕

仙台痛みのフォーラム 多診療科・多職種による地域の痛みの勉強会

仙台ペインクリニック

伊達 久



仙台地区の痛みに関する様々な専門領域の多職種のスタッフが、自由にディスカッションする場が仙台痛みのフォーラムである。会の発端は2017年、ある研究会の懇親会の雑談がきっかけである。もともと同じ臨床家でも専門が異なると最新の話題についていけない。その分野では今や常識なことでも他の分野では全くわからないこともある。この勉強会は、専門分野が違う痛みの専門家が集まって自分の専門分野のことを自由に討論する集まりである。この研究会の特徴は、企業の支援を受けず自分たちだけで企画運営していることである。企業が関係しないので、自由な発言、さまざまな質問が自由に飛び交う場である。また、医師だけでなく、看護師、リハ職種、薬剤師、心理師など職種を超えた交流ができるのももうひとつの特徴である。

当初は対面での開催のみであったが、ポストコロナからはハイブリッド開催で遠方からの参加も可能となっている。コロナ禍で培われたWEBの参加しやすさと、対面でのコミュニケーションの良さの両方を取り入れたハイブリッド開催を行うようになった。

現在参加しているのは、東北医科薬科大学薬学部(機能形態学)、東北大学緩和医療科(緩和医療)、東北医科薬科大学病院がん治療支援科(緩和医療)、東北福祉大学(臨床心理)、仙台ペインクリニック(ペインクリニック)、国際医療大学麻酔科、JCHO仙台病院、東北労災病院などであり、輪が広がってきている。

今年度は第20回と第21回の2回開催された。

第20回仙台痛みのフォーラム

日 時:2024年8月27日(火) 19:00~20:15 場 所:「エル・ソーラ仙台」28階 大研修室 ハイブリッド開催

参加人数:現地+Zoom参加 約30名

演 題:『メサドンを安全に投与するための取り組み』

演 者:大内 竜介 先生(東北医科薬科大学薬学部)

座 長:児山 香 先生(東北医科薬科大学病院 がん治療支援科)

メサドンの基礎的な知識、どのような患者がよい適応かを、実際の症例を通して講演を行った。その後活発な討論が行われた。

仙台痛みフォーラム
2024年8月27日

**メサドンを安全に投与するための
取り組み**

東北医科薬科大学 薬学部
東北医科薬科大学病院 薬剤部
緩和薬物療法認定薬剤師

大内 竜介

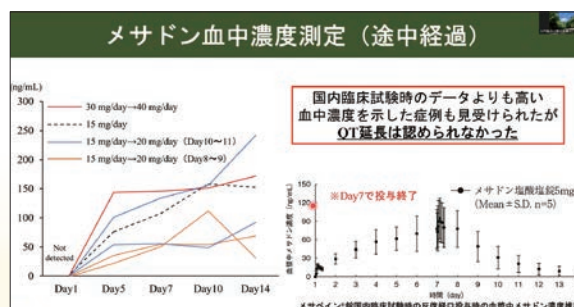
本日のアジェンダ

- メサドンの特徴と問題点
- 東北医科薬科大学病院での取り組みの紹介
- メサドン導入時の心電図モニタリングによる安全性評価についての検討
- メサドン血中濃度推移の検討

メサドンのDrug Information

薬物動態

- 吸収: 経口から 透析性の良い薬剤の例として、 t_{max} は4時間程度あり、 t_{max} は4時間程度、 $t_{1/2}$ は約176%、経口86%とほぼ同等
- 分布: 分布容積が3.6 L/kgと他の強オピオイドと同様に非常に大きく、血中に存在する量が微量であるため通常の血液透析では除去されにくい
- 代謝: 約80%が肝での代謝により体内から消失し、主たる代謝酵素としてCYP3A4およびCYP2B6により不活性なEDDP(2-エチリデン-1,5-ジメチル-3,3-ジフェニルピロリジン)に変換される
- 排泄: 尿中の未変化体排泄率は約21%
アルカリ尿では腎尿管再吸収によるメサドンの排泄遅延が起こる



第21回仙台痛みのフォーラム

日 時:2025年1月28日(火) 19:00~20:30 場 所:仙都会館3F会議室 ハイブリッド開催

参加人数:現地+Zoom参加 約30名

演 題:ブプレノルフィン再考 ~当科における最近の使用経験とエビデンス~

演 者:岩崎 洋平 先生(東北大学病院 緩和医療科)

座 長:井上 彰 先生(東北大学医学部 緩和医療学講座)

2025/1/28
第21回 仙台痛みのフォーラム

ブプレノルフィン再考

当科における最近の使用経験とエビデンス

東北大学病院 緩和医療科
岩崎洋平

本日の内容

- ブプレノルフィンの概要(歴史、特徴など)
- 使用機会がない or 使いづらいイメージ
- 当科での使用経験(エビデンスを踏まえて)
- その他の適応、興味深い報告など
- ご意見を伺いたいこと

Use of a buprenorphine-based pain management protocol is associated with reduced opioid requirements and pain on swallowing in oral mucositis: a retrospective cohort study

造血幹細胞移植後粘膜炎症のコントロールをブプレノルフィンで行った後ろ向き研究

<プロトコル>

1. ブプレノルフィンを中心とした段階的鎮痛管理:
経皮パッチで低用量の基礎鎮痛を提供し、必要に応じて舌下または静脈内PCAで補充
2. 鎮痛強化の手順: 痛みが管理できない場合、次の段階としてケタミンの点滴を追加
3. リドカイン点滴の適用: ケタミンで効果が不十分な場合に第三選択として使用
4. 鎮痛薬の切り下げ: 痛みスコア(NRS-11)が6未満で安静時鎮痛が達成された際に薬剤を段階的に減量
5. 患者の状態に応じた柔軟な対応: オピオイドによる副作用が発生した場合、ブプレノルフィンを他の薬剤(例: ヒドロモルフォン)に切り替え可能

Ilonka Meyer et al. Support care in cancer (2022)30:6013-6020

ブプレノルフィンまとめ

- 1966年に開発され、時代とともに役割が変わってきた
- 欧米ではOUD治療薬としての使用拡大をきっかけに鎮痛薬としても再注目されている
- 国内での使用頻度は少ないが、レバタン注®は経験上有用な場面がある
 - ① 内服不能あるいはそれに備えた患者のレスキュードーズ
 - ② 腎機能障害 高齢者のがん性疼痛
 - ③ がん治療関連粘膜炎症痛
 - ④ 非がんの慢性疼痛の急性増悪(適応の問題あり)

今後も仲間の輪を拡げて、新しいことを皆で共有出来たらと思っており、この研究会を通じて病病連携や病診連携、診診連携を深めて、地域の慢性疼痛診療のネットワークを確立していきたい。

(文責 仙台ペインクリニック 伊達)

2019年度から始まったこの研修会も今回で6回目。今回も札幌学院大学の北田雅子先生を招いて動機づけ面接研修会を開催した。今回は前回好評だった1日の総合プログラム(午前:基礎編、午後:実践編)という2部構成で実施した。今回も昨年に続いて対面で行うワークショップを開催した。

参加人数は24名であった。開催時期がいつもと少し異なったため、昨年より若干申し込み人数が減少した。参加者の職種は、医師・看護師(保健師)・理学療法士・臨床心理士(公認心理師)・薬剤師・柔道整復師など多職種にわたった。また心理教育課程の学生の参加もあった。

開催後に行った受講者のアンケートの結果を紹介する。

1) WSを全体的に振り返ってみて理解度はどれくらいですか？

1は「まったくわからなかった」、5は「何となく分かったけど説明は難しい」

10は「よく分かったし少しなら誰かに説明できる」の10段階で回答

平均:8.58 (5 ~ 10)

2) 動機づけ面接が注目されている背景についての説明はいかがでしたか？

1は「まったくわからなかった」、5は「何となく分かったけど説明は難しい」

10は「よく分かったし少しなら誰かに説明できる」の10段階で回答

平均:8.89 (6 ~ 10)

3) 行動変容の背景にある「両価性」についてお伺いします。

1は「まったくわからなかった」、5は「何となく分かったけど説明は難しい」

10は「よく分かったし少しなら誰かに説明できる」の10段階で回答

平均:8.63 (5 ~ 10)

4) 演習2の動画を見る演習はいかがでしたか？

1は「まったく気づきは得られなかった」、3は「どちらともいえない」

5は「新しい気づきがあった」の5段階で回答

平均:4.89 (4 ~ 5)

5) 演習2の患者さんの是認ポイントと自分自身の是認ポイントを考える演習をしてみてもいかがでしたか？

1は「まったく気づきは得られなかった」、5は「どちらともいえない」

10は「新しい気づきがあった」の10段階で回答

平均:8.94 (5 ~ 10)



6)演習4 開かれた質問を意識しながら面談をしてみる、の演習をしてみて、今後の臨床に活かそうですか？

1は「まったく活かそうにない」、5は「どちらともいえない」

10は「この演習は臨床に活かそう」の10段階で回答

平均:9.32 (8～10)

7)今日1日の評価をお願いします。

1は「不満足」、5は「まあまあ」、10は「とても満足している」の10段階で回答

平均:9.79 (8～10)

他に自由回答として以下の様な記載があった。

- ・対面での演習は情報も多く、ドキドキ、ワクワク感も強く、学びが多かったと感じました。
- ・臨床場面で仕事をした経験がまだないのですが、これから沢山そういった場所で沢山の方と関わって行くと思います。本日学んだことを繰り返し復習し、臨床での実践力を高めていこうと思います。
- ・是認していただいた内容が自分の強みだと気付くことができました。実際の面談に役立てそうです。参加者の皆様のレベルが高くて学びが多かったです。ありがとうございました。

北田先生が受講生の反応をしっかり観ながらご講義を進めて下さっていたので、参加者も混乱を起こすことなく、疑問を解決しながらワークを進めることができていた。北田先生に改めて感謝申し上げます。今回のワークショップをひとつの区切りにしようと考えている。今後は別な形で学習できる環境を構築していきたい。

(仙台ペインクリニック 伊達 久 記)

厚生労働省 慢性疼痛診療システム均てん化等事業

令和6年度

動機づけ面接のワークショップ

慢性疼痛治療における医療コミュニケーション

2024年
10月20日
日曜

基礎編 10:00-12:00
実践編 13:30-16:00

参加無料
定員30名
原則
通しの参加

事前
申し込み
必須

参加申し込みURL、QRコード
<https://forms.gle/VcUW34Ly53vfLmjQ9>

参加申し込み〆切:10月7日(月曜) 定員になり次第 〆切とさせていただきます

●慢性疼痛に関わっている医療関係者の方が対象(東北地区)●

講師紹介



北田 雅子先生
・札幌学院大学 人文学部 教授
・アトMI5系 (旧: 動機づけ面接調査研究所) 代表
website: <https://motivationalab.jimdofree.com/>
・動機づけ面接 国際ネットワークメンバー
Motivational Interviewing Network of Trainers (MINT)
・MINT認定トレーナー

著書
・医療スタッフのための動機づけ面接法
～逆引きMI学習帳～
・医療スタッフのための動機づけ面接2
糖尿病などの生活習慣病におけるMI実践

主催:令和6年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム均てん化等事業(宮城)
お問い合わせ 仙台ペインクリニック TEL:022-236-1310

〔宮城〕

〔宮城・仙台ペインクリニック〕

リハビリテーション職種のための慢性疼痛診療 研修会：慢性疼痛患者の心理アセスメント

仙台ペインクリニック リハビリテーション科
理学療法士

大友 篤



今回、慢性疼痛診療システム均てん化等事業 東北地区 宮城県の活動として、「慢性疼痛患者の心理アセスメント」の研修会を開催した。研修会の内容は、リハ職にとって馴染みが薄い心理検査の研修会であった。そのため参加者の中では初めて聞いた検査など、運動療法を実施する上で必要な心理検査を学ぶことができたと好評であった。また今回の研修会は、仙台市内の開催であったが、女川や石巻、丸森といった仙台市から離れた地域からの参加があった。今後は仙台市以外の地域での研修会等を企画していきたい。

日 時：2024年9月8日（日） 9:30～12:30

会 場：スタンダード会議室 仙台あおば通り 333店

参加対象者：宮城県内のリハビリテーション職種

参加者：12名（事前申し込み16名）

理学療法士8名 作業療法士1名 理学療法養成校学生3名

プログラム

講義Ⅰ「慢性疼痛の基本的知識」 仙台ペインクリニック／麻酔科 河野 友美

内容：慢性疼痛の定義、痛みの種類・分類、治療についての講義

講義Ⅱ「慢性疼痛の心理アセスメント」 新潟医療福祉大学／公認心理師 小林なぎさ

内容：慢性疼痛の心理的側面の検査について演習を含めた講義

講義Ⅲ「症例検討」 三春町立三春病院／理学療法士 岩崎 稔

内容：慢性疼痛の症例検討について心理的側面を含む評価、運動療法、そして運動療法介入による心理的側面の変化についてグループディスカッションを含んだ講義

参加者・ファシリテーターの感想

「研修会のファシリテーターとして」

仙台ペインクリニック 理学療法士 大澤 幸一

今回の研修会では、ファシリテーターを担当しました。はじめてのファシリテーターということで非常に緊張しましたが、グループの参加者の方々の活発なディスカッションに助けられ進行することができました。今回の研修会では参加者の方々の日々の臨床で悩んでいることなどを知ることができ、私自身も臨床の場での考えを深める機会となり、学ぶことが多かった研修会となりました。

「研修会に参加して」

女川町立医療センター 理学療法士 渡部 一馬

今回の研修会に参加して、改めて「痛み」について学ぶことができた。また、実際の症例を通して参加者の方とディスカッションができ、リハ職の考えを知ることができ参考になった。慢性疼痛患者に対して、疼痛の評価（心理含む）を実際に用いることは、痛みの原因を探る上で、表面化されていない部分を知ることができ重要であると感じた。疼痛は難しい問題ではあるが、正しく理解するために今回のような研修会に参加できたことはとても有意義な時間だった。

〔宮城〕

〔宮城・東北医科薬科大学〕

令和6年度厚生労働省慢性疼痛診療システム 均てん化等事業活動報告

東北医科薬科大学医学部
整形外科学
教授

小澤 浩司



厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材育成モデル事業（東北地区宮城県）として、いたみ財団Basicコース研修会と第3回仙台慢性疼痛研修会を開催しました。

Basicコース研修会は宮城県内の医療従事者を対象に、一般財団法人日本いたみ財団、公立大学法人福島県立医科大学と共催で、慢性疼痛の基礎知識を学び、ディスカッションを通じてより知識を深める目的で開催しました。24名が参加し、終了後にはBasic受講証明書を手にしました。

日 時：2024年12月8日（日） 9:30 ～ 12:30

【講義内容】

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1.慢性疼痛治療の概要と慢性疼痛治療に用いる主な薬剤 | JCHO仙台病院 山城 晃 先生(麻酔科) |
| 2.慢性疼痛診療におけるリハビリテーション治療 | JCHO仙台病院 佐藤 麻生 先生(理学療法士) |
| 3.就労支援と事例検討 | 星総合病院 二瓶 健司 先生(理学療法士) |
| 4.いたみマネージャーについて | 仙台ペインクリニック 伊達 久 先生 |

第3回仙台慢性疼痛研修会には、メールでの案内に加えて宮城県内の41病院、101診療所に案内を郵送し、39名の医師、看護師、薬剤師、理学療法士が参加しました。

今回の研修会では、慢性疼痛患者に関わる医療者の心のケアの問題や、慢性疼痛患者の就労支援について取り上げました。医療者の心のケアに関して東北福祉大学福祉心理学科准教授の武村尊生先生にご講演をお願いしました。通常ケアされることのない医療者側に立ったお話をいただきました。武村先生が行う心理療法の枠組みとして“治療同盟”、すなわち、治療効果を上げるには、セラピストとともに患者さんにも役割があることをあらかじめ患者さんと共有すべきであることがとても印象深く感じました。例えば、痛みさえとってくればいいからという患者さんの物言いは、患者さん側の役割を果たしていないと捉えます。運動療法、薬物療法においても、患者さん自身が考え、治療に主体的に参加する仕組みを作っていくことが慢性疼痛診療で重要であることを認識できました。

今回、慢性疼痛患者の就労支援について、患者さんにもご参加いただき議論しました。就労支援組織で支援を受けた患者さんにその体験をお話し頂き、どのように慢性疼痛状態から心身ともに快復していったかの体験を参加者と共有しました。当事者から我々医療者が学ぶことがたくさんあることを改めて認識し、もっと病院外での患者の社会的背景を理解しなければ、慢性疼痛診療の着地点がみつけれないことを認識しました。

「慢性疼痛例におけるセルフケアの実際－慢性腰痛の運動療法、生活上の気を付けること」と「疼痛薬の理解と患者が主体的に薬剤を選択する意義」の2講演では患者さんの治療への主体性をどう喚起するかという点が取り上げられました。運動療法の継続においても、薬剤選択においても、患者さんが主体的に選んで実践できる手助けをうまく行っていくことが、慢性疼痛診療で求められています。新しい視点を得られた有意義な研修会でした。

会 期:2025年1月15日(水) 18:30 ~ 20:15 会 場:JCHO仙台病院 1F 多目的ホール

プログラム:講演①「ペイシェントハラスメント 慢性疼痛患者に関わる医療者の心のケア」

武村 尊生 先生(東北福祉大学福祉心理学科 准教授)

講演②「当院入院症例における就労状況」 佐藤 麻生(JCHO仙台病院 理学療法士)

「患者さんの声」

講演③「慢性疼痛例におけるセルフケアの実際 慢性腰痛の運動療法、生活上の気を付けること」

高橋 朋也(JCHO仙台病院 理学療法士)

講演④「疼痛薬の理解と患者が主体的に薬剤を選択する意義」

松浦 夏子(JCHO仙台南病院 主任薬剤師)



会場風景



武村先生ご講演



患者さんと司会の黒澤先生

〔宮城〕

〔宮城・東北大学／歯科〕

歯科医師のための慢性疼痛診療講習会・研修会報告

東北大学大学院歯学研究科
歯科口腔麻酔学分野

水田健太郎



慢性疼痛診療システム均てん化事業 東北地区の活動として、東北地区の歯科医師の同職種連携を目的とした講習会と研修会を開催した。以下にその概要を報告する。

1. 講習会「歯科医師のための慢性疼痛診療講習会」

日 時：令和6年10月3日（木） 19:00～21:00

会 場：Zoomオンラインシステム

配 信 元：東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野医局

対 象：歯科医師

募集方法：東北6県の県・郡市区歯科医師会、歯科大学、医学部口腔外科に案内を郵送

参加者数：120名

プログラム

- 19:00～19:05 開会の挨拶 水田健太郎（東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野）
- 19:05～20:00 「疼痛に関連した顎関節症と慢性疼痛への対応」
小見山 道（日本大学松戸歯学部 クラウンブリッジ補綴学分野）
- 20:00～20:55 「診断が難しい歯痛と慢性疼痛への対応」
村岡 渡（川崎市立井田病院 歯科口腔外科）
- 20:55～21:00 閉会の挨拶 水田健太郎（東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野）

小見山氏は長年にわたる豊富な診療経験をもとに、口腔顔面領域の慢性疼痛の診断の診療の基礎について、特に顎関節痛への対応を中心に、初学者向けに平易な表現でご講演された。村岡氏は口腔顔面痛診療において誤診の多い歯痛と慢性疼痛の違い、診断方法、治療法の実際について自験例を交えながら分かりやすく解説された。

本講習会は東北一円から189名の事前応募があり、当日参加者数も120名超と盛況であった。従来、本講習会は休日に開催してきたが、本年度は平日夜にWeb配信形式で2時間の講義を行ったことで、参加者数の増加につながったと考えられる。

参加者の大多数は一次医療機関の歯科医師であり、また昨年度の受講者も多く含まれていた。東北地区における口腔顔面痛診療の普及と基盤づくりが着実に進んでいることが伺えた。

2. 研修会「歯科医師のための慢性疼痛診療研修会」

日 時: 令和6年11月17日(日) 10:00～15:40 会 場: 東北大学歯学部

対 象: 歯科医師 募集方法: 東北6県の県・郡市区歯科医師会、歯科大学、医学部口腔外科に案内を郵送

参加者数: 6名

プログラム

- 10:00～10:05 開会の挨拶 水田健太郎(東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野)
- 10:05～11:10 講義I「口腔顔面領域の慢性疼痛アップデート」
小見山 道(日本大学松戸歯学部 クラウンブリッジ補綴学分野)
- 11:10～12:20 講義II「慢性一次性口腔顔面痛への対応～筋筋膜痛や頭痛からくる痛み～」
村岡 渡(川崎市立井田病院 歯科口腔外科)
- 13:10～14:10 講義III「慢性二次性口腔顔面痛への対応～歯原性の痛みと非歯原性の痛み～」
廣谷 拓章(大崎市民病院 歯科口腔外科)
- 14:10～15:20 「症例提示・症例検討」 樋口 景介(石巻赤十字病院 歯科口腔外科)
- 15:20～15:40 質疑応答
- 15:40 閉会の挨拶 水田健太郎(東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野)

ファシリテーター【50音順】

小川 徹(東北大学大学院歯学研究科 口腔システム補綴学分野)

小見山 道(日本大学松戸歯学部 クラウンブリッジ補綴学講座)

樋口 景介(仙台市立病院 歯科口腔外科)

廣谷 拓章(大崎市民病院 歯科口腔外科)

村岡 渡(川崎市立井田病院 歯科口腔外科)



本研修会は、昨年度と同様に対面形式で開催した。研修会を円滑に実施するため、会に先立ち演者・ファシリテーター打ち合わせをWEBで複数回行い、全体の流れ、方向性について事前にすり合わせを行った。

研修会では参加者を2グループに編成し、各講義毎に約10分間のグループディスカッションを実施した。

小見山氏は、口腔顔面領域の慢性疼痛全般に関する基礎知識および最新の知見について、自験例を交えながら非常にわかりやすく解説された。村岡氏は、慢性一次性口腔顔面痛への対応について、特に筋筋膜痛や頭痛に起因する痛みを中心に、自験例を交えて講義を行い、さらに実際の診断方法について相互実習を実施した。廣谷氏は慢性二次性口腔顔面痛への対応として、特に歯原性歯痛及び非歯原性歯痛に関連した講義を行った。樋口氏は自験例をグループワークの教材として提示し、途中3度のディスカッションを行った。

参加者数が少なかったこともあり、参加者と演者、ファシリテーターとの間で非常に活発な議論が交わされた。今回の参加者には、昨年度の講習会・研修会を受講した経験のある方が多く、質問の内容も高度なものが目立った。また、実技を伴う相互実習も実施できたことから、参加者から高い評価を得た。

一方、参加者数が昨年度より減少した要因として、開催場所の利便性の低さが各演者から指摘された。今後は、遠方からの参加がしやすいように、交通の便の良い会場での開催が望ましいと考えられた。

(東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野 水田健太郎)



〔山形〕 令和6年度活動報告

山形大学医学部整形外科学講座
講師

鈴木 智人



山形県WEB勉強会 ケースカンファレンスから学ぶ慢性疼痛(第1回目)

日 時:令和6年10月31日(木) 18:00 ~ 19:00 形 式:ZoomシステムによるWEB開催

参 加 者:主に山形県内の医療従事者20名

山形県WEB勉強会 ケースカンファレンスから学ぶ慢性疼痛(第2回目)

日 時:令和6年11月28日(木) 18:00 ~ 19:00 形 式:ZoomシステムによるWEB開催

参 加 者:主に山形県内の医療従事者18名



当院疼痛緩和内科飯澤和恵先生の御発案により、WEB勉強会を2回行いました。近年、Zoomシステム等を用いてのオンライン会議が広く行われるようになり、移動の制限なく参加できるのがメリットかと思います。実際の症例の経過を通じて、慢性疼痛への様々なアプローチについて学ぶことができました。御参加の皆様からも好評だったと思います。

慢性疼痛診療研修会

日 時:令和6年12月21日(土) 14:00 ~ 17:30 会 場:山形国際ホテル 蔵王の間

参 加 者:主に山形県内の医療従事者12名+スタッフ7名

研修プログラム:1.慢性疼痛とは 診断・評価 山形大学医学部整形外科学講座 鈴木 智人

2.慢性疼痛の薬物療法 星総合病院 麻酔科(ペインクリニック) 深田 祐作 先生

3.慢性疼痛患者の運動療法 仙台ペインクリニック 理学療法士 大友 篤 先生

4.慢性疼痛患者とのコミュニケーション ~看護師の立場から~

星総合病院 慢性疼痛センター看護師 本 幸枝 先生

5.症例検討 山形大学医学部附属病院 疼痛緩和内科 飯澤 和恵 先生

昨年度福島県及び一般財団法人日本いたみ財団との合同企画により現地開催した慢性疼痛診療研修会ですが、今年度も同様の御協力を得て無事に現地開催することができました。山形県における慢性疼痛診療のすそ野を広げるべくベーシックな内容について理解を深めることを目的に上記のようなプログラム構成に致しました。医師(内科、整形外科、歯科)、看護

師、医療クラーク、公認心理士といった様々な職種の方に御参加頂き、グループディスカッション方式を取り入れながら、あっという間の3時間30分でした。

今後は、ベーシックな内容から少しずつアドバンスな内容も組み込みながら、山形県内の慢性疼痛診療の最適化と向上に貢献できるよう、山形県担当者一同精一杯務めてまいりたいと思います。

来年度も、山形県を何卒よろしくお願い申し上げます。

（謝辞）

今年度も福島県立医科大学医学部疼痛医学講座秘書の高槻さん、一般財団法人日本いたみ財団事務局の内藤さんには山形県における本事業遂行にあたり多大なる御協力を頂戴しました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

〔山形〕

めざせ！ サステナブルな慢性疼痛診療

山形大学医学部附属病院疼痛緩和内科
講師

飯澤 和恵



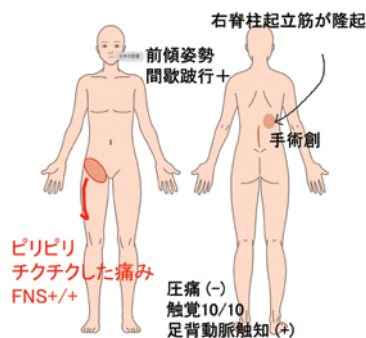
令和6年度は通常の研修会に加え、WEB勉強会「ケースカンファレンスから学ぶ慢性疼痛」を2回開催することができました。提示したケースと勉強会の内容を要約して報告したいと思います。

【第1回目】では、まず鈴木智人先生が「慢性疼痛」について講義を行い、その内容を踏まえて飯澤が症例を提示しました。続いて大友篤先生がこの患者について身体的評価と運動療法の実践について、さらに小林なぎさ先生が心理的アプローチについて講義されました。このようにリレー形式で「多職種で臨む難治性疼痛患者診療の実践」を学びました。

症例は70歳代の女性。脊椎手術後疼痛症候群(L3/4, L4/5両側開窓術)。

主訴：立仕事がつらい、長く歩けない。「手術しても全く痛みは改善されなかった、痛みさえなければ」と言う。

痛みの強度：NRS 8/10（最大）、NRS 5/10（最小）



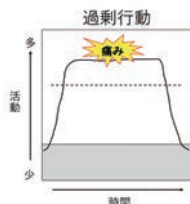
破局的
思考

神経ブロックと運動療法を施行し、NRS 3/10まで改善したにも関わらず「痛みは変わらない」と言う。

●理学療法士大友先生の評価(スライドより抜粋)

機能障害

- 股関節伸展制限, SLR, 足関節背屈制限
- ・ハムストリングス
 - ・腸腰筋
 - ・下腿三頭筋
- ペーシング不良：火水木金 水泳・プール



アドヒアランス

- 患者側要因：痛み（特に中枢で修飾された痛み）
過度のディコンディショニング
自己効力感の低下
- 医療者要因：痛みについての患者教育不足
患者へのサポート不足
- 環境要因：運動に対する家族や職場のサポート不足
適切なヘルスケア提供者と安定したコンタクトがとれない

せっかく良くなったと報告した患者様でしたが、本人曰く「全く良くならなかった」と他院を受診され、突然当科は終診となりました。良くなった、と私が勝手に判断し、リハビリの間隔を空けてしまったのが要因だと思っています。大友先生が指摘するように本症例はペーシングに問題がありました。ヘルスケア提供者と適切な頻度で、適切にコンタクトをとりつつリハビリをする必要があったのだと思います。

大学病院の外来でリハビリを提供するのは難しく、「特別」に病院長の許可を得て月1回実施しているのが現状です。この勉強会にペインリハビリテーション「やまがたコンディショニングルーム」を立ち上げた佐藤治さんが参加くださいました。すでに痛み専門医療者の資格のある方です。今後は地域との連携により、持続可能な理学療法が実現するかもしれない、と期待しています。

【第2回目】は心理社会的要素の強い痛みの症例について検討しました。

症例は30歳台の女性。交通事故後の長引く左上肢～頸部痛です。

「痛みのため仕事を辞めざるをえなかった。勤務先も保険会社も理解してくれない。私は被害者なのに。加害者は任意保険も入っていない高齢者で謝りもしない。」

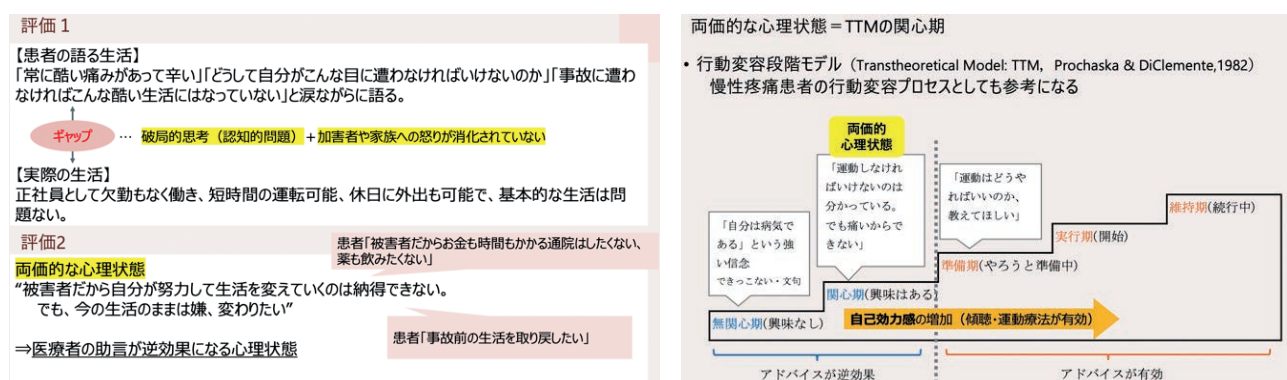
心理社会的要因が大きく補償も絡む症例です。睡眠障害があり、一度心療内科を紹介したものの「被害者なのに、まるで加害者のようにいろいろ聞かれて、つらい」と大泣きし、結局当科単独で関わることになりました。

神経ブロックを診断目的で行ないました。心理的要因が大きいと神経ブロックに対し、患者は奇異的な反応を示すことが多いと日頃思っています。身体的要素よりも心理的要因が大きいたことが窺われました。

そこで、まず身体的評価を大友先生に依頼しました。その結果、柔軟性、関節可動域などは全く問題ないことが示されました。

本人も身体的な問題がなかったことで、小林なぎさ先生の心理面接を受けることに納得しました(心療内科を紹介した時と異なる反応)。

●小林なぎさ先生の評価(スライドより抜粋)



小林先生によると、心理社会的要因の強い慢性疼痛治療では「急がば回れ」だそう。

- ・身体機能の評価をしっかり行うことで患者の安心感に繋げ
- ・その上で心理面接の導入を行い、両価的な心理状態を行動変容段階モデルを参考に、認知行動療法などの心理療法を行う。
- ・無関心期はアドバイスが無効。
- ・本症例はまず傾聴が必要な症例。

小林先生による段階を踏んだ心理面接で、患者さんは確実に変化し、あと一歩というところまで回復しました。

今回提示した症例は、日頃の臨床で経験する困難な症例のほんの一部ですが、多職種でアプローチすることで解決の糸口を見出せたと思います。大友先生や小林先生の適切な評価と深い知識により、患者様をより深く理解することができました。参加した皆様にとっても、非常に有意義な講義内容になったのではと思います。私のつたない症例提示が見事に昇華され、感動と感謝の気持ちでいっぱいです。

ところが、先に述べたように、大学病院ではこの多職種によるアプローチを継続できる保証がありません。大友先生や小林先生には十分な対価が支払われておりません。ボランティア精神だけでは続けられないし、後進が育ちません。よって、令和7年度も同じ取り組みが続けられるとは限らないのです。

サステナブルな多職種によるアプローチを実現するために、皆様のお力と知恵をお貸りできればと思います。

令和6年度も多くの方に支えられて活動することができました。令和7年度も、変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

〔福島〕

令和6年度

厚生労働省慢性疼痛診療システム均てん化等事業 市民公開講座 痛み×仕事×健康寿命

福島県立医科大学医学部疼痛医学講座 教授
星総合病院慢性疼痛センター 副センター長

高橋 直人



厚生労働省慢性疼痛対策研究班は、慢性疼痛診療の核となる集学的治療が行われている施設を“いたみセンター”と認定しています。星総合病院慢性疼痛センターは2018年に“いたみセンター”として認定されました。我々は集学的痛み治療を行う中で痛み治療の一環として、外部資源と協力の上、慢性疼痛患者さんへの就労支援を行っております。

慢性疼痛を有する患者さんは身体的にも精神的にも健康を維持することができず活動性が低下していること、治療を優先するが故に休職していること、たとえ就労できたとしても生産性低下といった就労に支障をきたしている状態になっていることが少なくありません。このような患者さんに対して就労支援をどのようにして対策を講じていくかは、非常に重要な社会問題の一つであると考えております。私の所属する福島県立医科大学医学部疼痛医学講座では、慢性疼痛に起因する就労不能（アブセンティズム）や生産性低下（プレゼンティズム）による障害を予防し、就労支援を遂行して社会復帰を目指すための研究として、「厚生労働科学研究費 就労制限を来した慢性疼痛患者の就労支援に寄与する多角的包括的研究」と「厚生労働科学研究費 痛覚変調性疼痛を有する慢性疼痛患者の心理社会的背景の分析と社会復帰・居場所づくりを推進する研究」を昨年に引き続き継続して取り組んでまいりました。

星総合病院慢性疼痛センターでは「仕事と治療の両立支援」に有用な外部資源として全国に先駆けて福島産業保健総合支援センター（産保センター）との連携を開始しました。産保センターは、治療と仕事の両立のための取り組みや両立支援制度の導入を支援してくれる機関で、職場は退職してないが慢性疼痛を有し休職を余儀なくされている患者さんへの相談・支援を同時に行なっていただいております。本年度も我々の施設で多職種連携集学的痛み治療を受け休職を余儀なくされていた多数の患者に対して職場への就労復帰を支援していただき、ほぼ全員が仕事に復帰するに至りました。この場をお借りして、産保センターのスタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。

その他の外部資源としてハローワーク郡山、障害者就業・生活支援センター（福島県）および生活困窮者自立相談支援事業とも連携を深めていこうとしているところです。

昨年度に引き続き、本年度も慢性疼痛患者さんを中心にありのある一般市民向けに痛みに対峙する我々の取り組みを広く周知していただくことを目的とした市民公開講座を開催させていただきました。この市民公開講座は令和6年度厚生労働省慢性疼痛診療システム均てん化等事業の一環で、福島県立医科大学医学部疼痛医学講座が主催し、一般財団法人日本いたみ財団、公益財団法人星総合病院との共催で、2024年10月18日（金）に星総合病院メグレスホールにて実施された「市民公開講座 痛み×仕事×健康寿命」です。

<https://nippon-itami.org/2024/08/22/1018kooriyama/>

この市民公開講座は、4つの講義で構成されました。

講演1は「腰痛・ひざ痛・肩こり・猫背のセルフケア～イキイキと働き続けるために～」との演題名で、福島県立医科大学医学部疼痛医学講座特任教授の松平浩医師が慢性疼痛を抱えながら仕事をしている労働者に対し、腰痛をはじめとした慢性筋骨格系疼痛対

令和6年度厚生労働省慢性疼痛診療システム均てん化等事業

市民公開講座

痛み×仕事×健康長寿

参加費 無料

●腰痛・ひざ痛・肩こりをはじめとする“からだの痛み”のセルフケア
●イキイキと働き続けるためのツボとお得な資源
●さらには健康寿命を確実に伸ばすために欠かせないツボや情報を得られます！
●企業の人事労務・健康、病院スタッフの方々が知っておきたい「仕事と治療の両立支援」の情報を！

講演1 腰痛・ひざ痛・肩こり・猫背のセルフケア
～イキイキと働き続けるために～
福島県立医科大学医学部疼痛医学講座 世界一受けたい授業や多くのNHK番組に出演し、「腰痛これだけ体質」でおなじみの光東大病院 松平浩先生 特任教授 松平 浩先生

講演2 痛みを持ちながら働くということ
痛みを抱えながら治療と仕事を続け回復した経験者からのメッセージ
●「慢性疼痛」という痛みについて（私の症状）
●私が受けた治療について（人間プログラム・外来通院）
●治療と仕事の両立について
●いまだどのように仕事・痛みと向き合っているか

講演3 職業安定所の取り組み
職業安定所が取り組む両立支援について
ハローワーク郡山 専門相談窓口 総務課長 佐藤 加奈子氏

講演4 産保センターの取り組み
産保センターが取り組む両立支援について
独立行政法人 労働政策研究・研修機構 福島県産業保健総合支援センター 産業保健専門員 津村 紀子氏

参加対象 ●企業の人事労務・健康、病院スタッフなど就労支援に関わる方々
●痛み・病気などで働きづらさを感じている方
●イキイキと働き続けたい方など大歓迎！

2024年 14:00～16:00
10月18日（金）
星総合病院 メグレスホール
〒963-8501 福島県郡山市内河町159番1号
TEL 024-983-5511（代）

定員 200名（申込 2024年10月14日 12:00まで）
参加申込みはこちらから

【お問い合わせ】
福島県立医科大学医学部疼痛医学講座（運営担当：高橋）
E-mail kozumage@fmu.ac.jp

主催／福島県立医科大学医学部疼痛医学講座
令和6年度厚生労働省慢性疼痛診療システム均てん化等事業（東北ブロック） 令和6年度「慢性の痛み」政策研究事業
共催／一般財団法人 日本いたみ財団、公益財団法人 星総合病院

策としての運動やストレッチングのやり方および予防法など、実技を踏まえながらご教示くださいました。私も含め聴講した参加者にとって大いに勉強になる内容でした。

講演2は「痛みを持ちながら働くということ(痛みを抱えながら治療と仕事を続け回復した経験者からのメッセージ)」との演題名で、医療法人社団健暉会清原診療所 郷喜子氏によりご自身が経験された慢性疼痛の闘病生活に関して、その症状やそれに対する治療、治療と仕事の両立、痛みとの向き合い方などを詳細に説明してくださいました。参加した慢性疼痛患者さんや医療関係者には大変参考になる、また励みになる素晴らしいご講演でした。

次に「職業安定所が取り組む両立支援について」との演題名で、ハローワーク郡山専門援助部門統括職業指導官の佐藤加奈子氏から、無職で闘病生活を過ごされている慢性疼痛患者が求職を希望された場合にハローワークが取り組む支援について詳細に解説していただきました。これから治療と仕事を両立させようと考えている患者さんやそのご家族さんには大変参考になる素晴らしいご講演をいただきました。

最後に、「産保センターが取り組む両立支援について」との演題名で、産保センターの産業保険専門職である津村紀子氏から、慢性疼痛患者に対する産保センターが取り組む支援について説明していただきました。退職はしていないが休職中である慢性疼痛患者さんが仕事復帰するにあたり、主治医意見書を元に職場の担当者と患者さんとの面談を行い、会社側に「復帰支援プラン」を作成していただき、復帰しやすい環境づくりをお手伝いしていただけるという内容で、やはりこれから治療と仕事を両立させ職場復帰を目指している患者さんやご家族さんには希望が持てるようなわかりやすい素晴らしいご講演でした。

医療職以外の外部資源と連携することで、そこでお互いが顔の見える関係となることにより相談しやすい環境が生まれ、治療と仕事の両立支援を必要とする慢性疼痛患者さんご本人の支援につながることは元より、集学的痛み治療の質の向上をも期待することができると実感いたしました。また、医療職以外の外部資源に参入してもらうことで、我々いたみセンターの医療スタッフの負担軽減にもつながったと考えております。

このように外部資源と連携するには、症例毎に丁寧に痛みに対する多面的評価を行い、そこで痛みの病理を的確に診断した上で、就労が困難となっていることにおける問題点や課題を的確に指摘する必要があります。そういう意味では星総合病院慢性疼痛センターはこのようなシステムのモデル的立場として、また“いたみセンター”としての役割を果たすべく、東北ブロックさらには全国でこのような外部資源の活用法を普及していくことができればと考えております。

今後とも皆様と共に慢性疼痛診療を盛り上げていきたいと考えておりますので、ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

〔福島〕

慢性疼痛診療研修会 報告

星総合病院 慢性疼痛センター

二瓶 健司



日 時:2025年1月19日(日) 10:00~15:00

会 場:東京第一ホテル新白河(福島県西白河郡西郷村道東7番地)

内 容:・慢性疼痛概論:高橋 直人 先生(星総合病院 整形外科医)
・薬物療法:石森 朋子 先生(星総合病院 薬剤師)
・慢性痛による便秘のケアと超音波検査:古市 晃礼 先生(星総合病院 看護師)
・超音波検査機器の実際の使い方:渡辺 貴子 先生(三春病院 臨床検査技師)
・運動療法:佐藤 圭汰 先生(福島県立医科大学会津医療センター 理学療法士)
・定量的知覚検査について:大友 篤 先生(仙台ペインクリニック 理学療法士)
・定量的知覚検査の実際:鈴木 阜平 先生(仙台ペインクリニック 理学療法士)
・運動器慢性痛の超音波検査とインターベンション治療:深田 祐作 先生(星総合病院 麻酔科医)

参 加 者:8名

職種内訳:

職種	参加者数
歯科医師	2名
看護師	1名
理学療法士	4名
作業療法士	1名

総 括:本研修会では、慢性疼痛の病態把握を行うための評価技術の均てん化を目的に開催しました。整形外科医による慢性疼痛の概論に始まり、薬剤師のオピオイド治療薬に関する説明から、看護師によるオピオイド誘発性便秘症のケアと臨床検査技師によるポケットエコーを用いた検査手技の説明の流れで行われました。便秘に対するケアに関するグループディスカッションでは、薬物、水分、食事、運動、生活習慣など多面的に議論できる内容となりました。午後は、理学療法士による運動療法の総論、定量的知覚検査の体験を実際の機器を用いて各グループで行いました。中枢性感作など痛みのメカニズムの把握を簡便に行えることから、あらゆる職種の参加者からも好評でした。最後に、麻酔科による超音波検査の歴史・意義・使い方の講話と、実際のエコー機器を用いながらのライブ説明も行われました。エコー機器を会場に運び、エコーの画像を大きなスクリーンに映し出して、参加者全員にしっかりと画像を見てもらえるように企画した初の試みでしたが、滞りなく進めることができました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

今回、慢性疼痛の病態をしっかりと把握するための様々な検査手技を学ぶことができ、その必要性を改めて認識することができました。これからの慢性疼痛診療の実際場面に活かしていくとともに、関係機関への周知を行いながら評価技術の均てん化を目指していききたいと思います。



編集後記

コロナに振り回された数年間でしたが、2024年度は対面で本慢性疼痛診療システム均てん化等事業を行うことができ、この報告書を作成できたことを嬉しく思っております。

今年度も、各県の幹事が中心となってこのモデル事業を推進してきました。この報告書を読むと各県の特徴がわかると思います。各県の幹事の皆様、本当にご苦勞様でした。また、本事業に関わってくださった皆様、ありがとうございました。本事業を通して、東北の慢性疼痛で悩む患者さんにより良い診断・治療を行えるようになってほしいと願うばかりです。皆様、今後ともご指導・ご支援のほど、よろしくお願いします。

福島県立医科大学疼痛医学講座

教授 矢吹省司

**公立大学法人福島県立医科大学医学部
疼痛医学講座**

〒960-1295 福島市光が丘 1 番地
TEL&FAX 024-547-1987

編集・印刷：タカラ印刷株式会社

